

平成30年10月9日財政制度等審議会資料(抜粋)

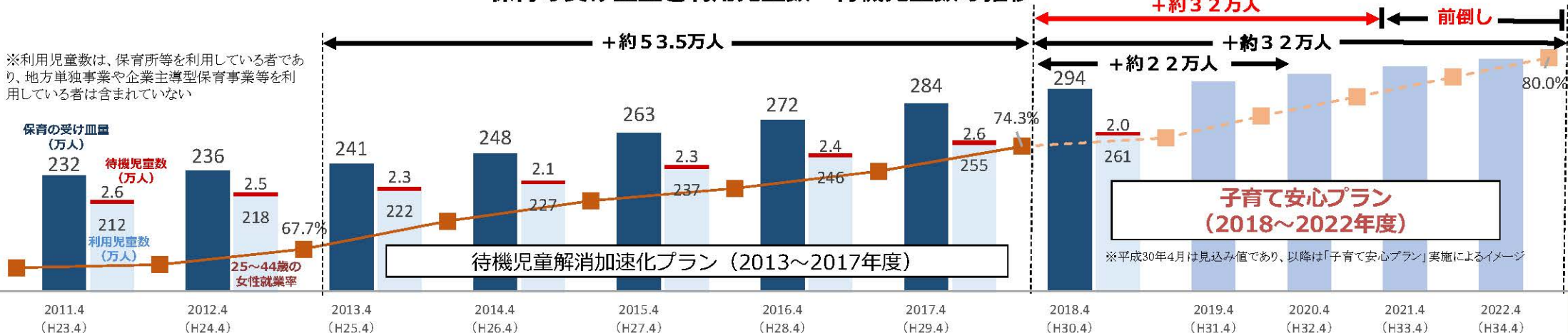
子ども・子育て

子ども・子育て支援について

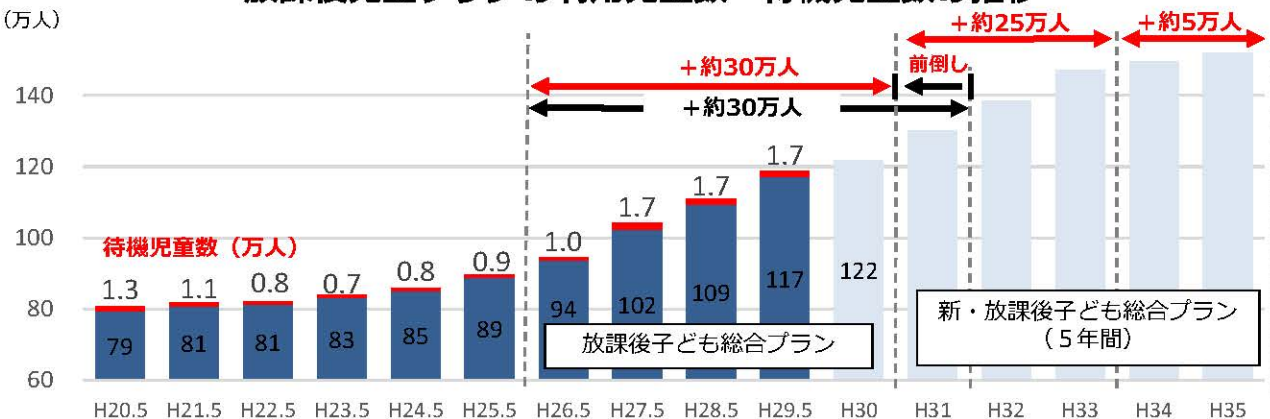
【現状】

- 保育の受け皿について、2013～2017年度末までの5年間で、待機児童解消加速化プランと合わせ、約53.5万人分拡大し、政府目標の50万人分を達成。また昨年6月に厚生労働大臣から「子育て安心プラン」を発表。さらにそれを前倒し、2018年度～2019年度末までの2年間で保育の受け皿を約22万人分拡大、女性就業率80%に対応できるよう2020年度末までの3年間で合計約32万人分の受け皿整備を進め、遅くとも2020年度末までの3年間で待機児童を解消することとされている。
- 保育の無償化について、これまで段階的に進めてきたところ、この6月に閣議決定された「骨太の方針2018」において、3歳から5歳までの全ての児童及び0歳から2歳までの住民税非課税世帯の児童について、2019年10月からの全面的な無償化措置の実施を目指すこととされている。

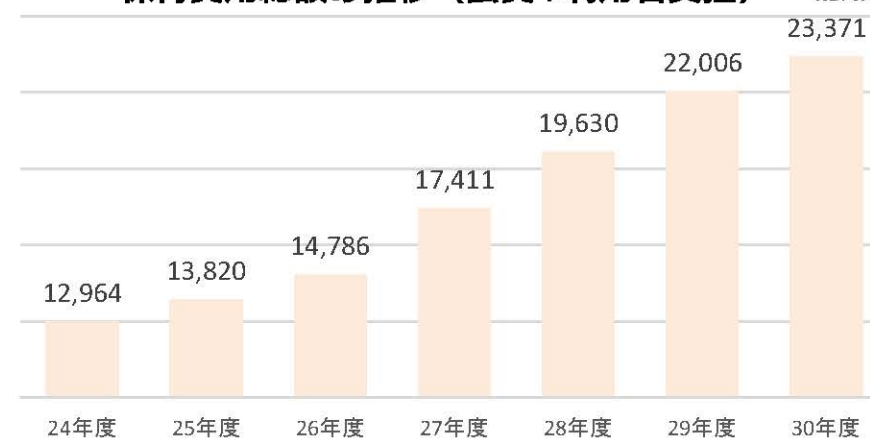
保育の受け皿量と利用児童数・待機児童数の推移



放課後児童クラブの利用児童数・待機児童数の推移



保育費用総額の推移 (公費+利用者負担) (億円)



(出所) 厚生労働省「放課後児童健全育成事業の実施状況」(毎年5月1日現在)

(注) H30以降については、「放課後子ども総合プラン」及び「新・放課後子ども総合プラン」(平成30年9月14日公表)の実施による見込み値。

※私立保育所等の運営費(公定価格)の当初予算額に基づくものであり、施設整備費等は含まない